

トリアージ体系の構築等による地域救護力の向上

【事業の概要】

東日本大震災における教訓等を踏まえ、救急搬送対応力や限られた医療資源の範囲内で最大限の救急対応を行うため、特に大規模災害時において、家庭や被災地といった現場、電話救急相談、119番通報、救急搬送など社会全体の各段階で共有するトリアージの体系（緊急度判定支援システム）を新たに開発することが必要であるとの認識のもと、日本版の「緊急度判定基準」を運用するシステムを構築するとともに実証検証を行う。

（日本版の緊急度判定基準の活用による具体的な効果）

・救命効果の向上

・病院収容時間の短縮

・救急医学の発展

【事業のイメージ】

I 東日本大震災を踏まえたトリアージ体系の構築事業

1 緊急度判定基準運用システムの構築

- 家庭や被災地：デジタルテレビを活用し、年齢、性別、症状等を問わず、自分で確認できる家庭用緊急度判定システムの構築
- 救急相談窓口：救急車を呼ぶべきか迷った方からの相談に対し、緊急度判定システムを導入し、緊急度を判定するシステムの導入
- 119番通報：指令センターでの緊急度判定システムの導入
- 救急現場：救急隊が到着した後の傷病者の緊急度判定にシステムを導入
- 搬送先医療機関：院内における緊急度判定基準の導入

2 実証検証

各段階でのトリアージプロトコルに従って、一部又は全部の段階で実施できる地域を選定して実証検証を実施する。

